

I. 平成 19 年度事業報告書

(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

I. 財団の管理・運営

会議の開催

第 25 回理事会 (平成 19 年 6 月 11 日)

選考基準「アジア諸国とは、次の諸国をいう。」について外務省の定める新基準に変更することが承認されました。平成 18 年度事業報告及び収支決算報告が承認されました。

第 25 回評議員会 (平成 19 年 6 月 11 日)

選考基準「アジア諸国とは、次の諸国をいう。」について外務省の定める新基準に変更することが承認されました。平成 18 年度事業報告及び収支決算報告が承認されました。

第 26 回理事会 (平成 20 年 3 月 4 日)

評議員の任期満了に伴う選出について審議の結果、評議員 13 名（任期：平成 20 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）が選出され承認されました。選考委員会委員の任期満了に伴う選出について審議の結果、選考委員会委員 5 名（任期：平成 20 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）が選出されました。平成 20 年度事業計画及び収支予算、平成 20 年度奨学生 40 名等が承認されました。

第 26 回評議員会 (平成 20 年 3 月 4 日)

理事及び監事の任期満了に伴う選任について審議の結果、理事 12 名及び監事 2 名（任期：平成 20 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）が選任され承認されました。平成 20 年度事業計画及び収支予算、平成 20 年度奨学生 40 名等が承認されました。

臨時理事会・評議員会

(開催通知発出 平成 19 年 12 月 27 日、議事採決 平成 20 年 1 月 11 日)

当財団が保有する(株)共立メンテナンスの株式を 50,000 株売却以前の状態に戻すことについて、「(株)共立メンテナンス株式を買い戻す」、「株式 50,000 株の買い戻し期間は平成 19 年度内に完了する」及び「買い戻し資金が不足した場合に備え、短期借入れを実施し、金額は¥50,000,000 とする。その返済については平成 20 年度内に完了する」ことが承認されました。

第 15 回選考委員会 (平成 20 年 2 月 7 日)

奨学金対象校から推薦のあった平成 20 年度奨学生候補者 290 名及び現地（大韓民国）奨学生候補者（5 名）について、審査の結果、(財)共立国際交流奨学財団奨学金 15 名（現地（大韓民国）採用 3 名）及び(株)共立メンテナンス奨学基金奨学金 25 名（現地（大韓民国）採用 2 名）の合計 40 名（現地（大韓民国）採用 5 名）を平成 20 年度奨学生候補者として選考しました。

Ⅱ．奨学金支給事業

留学生奨学金の支給

平成 18 年度（財）共立国際交流奨学財団奨学金 15 名及び平成 19 年度（財）共立国際交流奨学財団奨学金 15 名、（株）共立メンテナンス奨学基金奨学金 25 名、合計 55 名に平成 19 年 4 月から平成 20 年 3 月まで、奨学金（（財）共立国際交流奨学財団奨学金 月額 10 万円・期間 2 年間、（株）共立メンテナンス奨学基金奨学金 月額 6 万円・期間 1 年間）を支給しました。

現地奨学金を、ベトナム 6 名、ラオス 6 名、ミャンマー 3 名 計 15 名に支給しました。

Ⅲ．寄附金募金事業

個人 11 名（現地奨学金 10 名）からの寄附金を受け入れました。

Ⅳ．国際交流支援事業

1．研修会の開催

奨学生及び一般学生（留学生、日本人学生）も参加し、相互理解と国際親善・交流を促進するための研修会を実施し、訪問地におけるホームステイ、史跡・歴史的建造物見学、ディスカッション等を通して、日本の文化、歴史、自然についても理解を深めました。

<各研修会報告>

第 36 回 奨学生研修会

開催地：小田原・富士山・箱根

開催期間：平成 19 年 6 月 2 日～4 日 2 泊 3 日

参加者：（財）共立国際交流奨学財団 2006 年度、2007 年度奨学生 30 名

内容：小田原城、富士山、箱根訪問

第 37 回 研修会

共催：（財）共立国際交流奨学財団、（財）北海道国際交流センター

開催地：北海道 札幌・函館地域

開催期間：平成 19 年 8 月 19 日～26 日 7 泊 8 日

参加者：留学生 35 名

内容：ファーム体験、ホームステイ

第38回 研修会

共 催：(財) 共立国際交流奨学財団、(財) オホーツク国際交流センター
開 催 地：北海道 オホーツク地域
開催期間：平成 19 年 8 月 22 日～29 日 7 泊 8 日
参 加 者：留学生 15 名
内 容：ホームステイ、25 周年記念フォーラム、記念植樹祭参加

第39回 研修会

共 催：(財) 共立国際交流奨学財団、(財) 北海道国際交流センター
開 催 地：北海道 函館地域
開催期間：平成 19 年 12 月 5 日～9 日 4 泊 5 日
参 加 者：25 名（留学生）
内 容：ホームステイ、学校交流、ガラス作り体験など

第40回 研修会

開 催 地：沖縄（本島・伊江島）
開催期間：平成 20 年 2 月 25 日～3 月 1 日 5 泊 6 日
参 加 者：日本人学生 1 名・留学生 78 名
内 容：伊江島にて民泊体験、沖縄観光など

V. 生活支援事業

留学生の生活支援を行うため、蕨女子学生会館、武蔵浦和女子学生会館、つつじヶ丘男子学生会館、相模大野学生会館の国際交流会館 4 棟の管理・運営を行いました。

また、大学、専門学校（1 校 3 名以内）に提供する「奨学寮」を札幌地区 1 大学、東京地区 6 大学、名古屋地区 3 大学、関西地区 8 大学・5 専門学校に計 57 名分提供しました。

VI. 教育事業

日本語教育施設として日新アカデミー日本語学校の管理・運営を行いました。

VII. 出版物

1. 財団紹介のパンフレット『財団法人共立国際交流奨学財団（紹介・情報案内）Vol. 13』情報誌『アジア文流 Vol. 22』、『アジア文流 Vol. 23』、『留学生の就職情報誌「共立・桜」Vol. 10』を出版し、文部科学省、関係機関、奨学財団、大学、専門学校、日本語学校及び奨学生などに配布しました。
2. 日本留学を志す中国の人に正確な留学情報を提供するため、日本の生活情報と大学情報を内容とした「2008 年度留学生活 i n 日本」を中国語で出版し、『2007 年度 Career Up 日本 Fair in 上海』の参加者等に無料配布しました。

VIII. イベント事業

1. 第10回「日本体験コンテストin大韓民国」の開催

当財団主催、文部科学省、駐大韓民国日本国大使館公報文化院、東亜日報等後援、(株)共立メンテナンス等協賛の標記コンテストの企画募集及び選考を行い、2007年10月7日、大韓民国ソウル特別市ロッテホテルを表彰会場として入賞者の表彰式を開催しました。

標記コンテストは、大学院、大学校、大学生を対象として、日本で体験してみたいことをテーマに企画を募集しました。応募者94名の中から、審査員による採点審査の結果5名が選ばれました。

入賞者5名は、2008年3月31日までに、それぞれの日本体験企画を実施し、その報告書を提出しました。

2. 「2008年度奨学生現地（大韓民国）選考会」

日本の教育機関（大学院、大学、専門学校、日本語学校）に進学を希望する応募者132名に対し、当財団須郷選考委員長、菊川選考委員が日本語による面接を行い、当財団奨学生3名、(株)共立メンテナンス奨学基金奨学生2名を2008年度奨学生候補者として選考しました。

3. 「2007年度Career Up日本Fair in上海」の開催

当財団（東京本部・上海委託事務所）主催、文部科学省、在上海日本国総領事館、等後援、中国南方航空公司、(株)共立メンテナンス協賛の標記コンテストを2007年10月21日、中華人民共和国上海市甘泉外国語中学校を会場として開催しました。

<開催事業>

「第5回日本語コミュニケーションコンテスト in 上海」

日本の高等教育機関に留学を希望する学生や、日本語を学んでいる中国の大学生、高校生を対象に実施し、大学、短期大学生73名、高校生85名の応募がありました。

午前に行われた選考会では、日本の政治、経済、文化文学、社会、地理に関するクイズ50問が出題され、39名（高校生17名、短大・大学生22名）が予選を通過し、午後の本選会に出場。

本選会では3分間の即興スピーチを行い審査員による採点審査の結果、入賞者8名（高校生4名、短大・大学生4名）が選ばれました。

入賞者8名は「きままな日本旅行8日間（2008年1月31日～2月5日）」に参加し、日本の学校見学、研修観光等のプログラムを通し、日本の教育環境、文化などに触れ日本について理解を深めました。

4. 第7回『日本人学生の「アジア体験」コンテストtoベトナム』の開催

当財団主催、外務省、文部科学省、駐日ベトナム大使館、産経新聞社後援、(株)共立メンテナンス等協賛の標記コンテストの企画募集及び選考を行い、2007年11月17日共立メンテナンス会議室を表彰会場として入賞者の表彰式を開催しました。

標記コンテストは、大学院、大学、短大、専門学校生を対象として、ベトナムで体験してみたいことをテーマに企画を募集しました。応募者122名の中から、審査員による採点審査の結果5名が選ばれました。

入賞者5名は、2008年3月31日までに、それぞれのベトナム体験企画を実施し、その報告書を提出しました。